

業銀行業（成長の主要な担い手として、投資銀行業、複雑なデリバティブの組成や自己勘定売買に立脚した銀行とは反対に）に集中し、地理的にも多角化していた銀行に当てはまった。対照的に、より小さくより多角化していない銀行のいくつか、特にモーゲージに集中し、不動産バブルに苦しむ加盟国に本店をおいた銀行は、著しい損失に苦しんだ。以下でさらに論じるように、資金調達構造は、銀行の回復力の重要な決定要因であり、いくつかの（大小の）商業銀行は、短期のホールセール市場への過剰な依存により、破綻した（例えば、ノーザン・ロックやデクシア、それぞれ3.6.1と3.6.3を参照）。

大銀行と小銀行のあいだの主要な相違は、破綻の確率よりも破綻のインパクトに関係している。小銀行の破綻はシステム全体にそれほど影響を及ぼしそうにない。たとえば、1980年代のアメリカの貯蓄貸付組合の危機（付録2）や、同じく今回の危機におけるスペインのカハの経験（3.3.6参照）、そしてある程度スウェーデンの1990年代の経験（付録2）によっても示唆されるように、同時に同じ問題に直面する多くの似たような小さな機関がなければ、すなわち、小さな機関が、相関や相互連関（「多すぎて潰せない」）によってシステム全体に影響を及ぼすようにならない限り、そのことが当てはまる。これらのケーススタディも、伝統的な（リテール）銀行業務が、特に不十分にしか規制されず内部管理が脆弱な銀行が過剰な貸付に従事する場合には、危機の原因になりうることを示している。

3.4 システム上重要な EU の大銀行

本節では、SNL Financial（および他のデータソース）から集められたデータを使って、EU 大手銀行のサンプルの主要な特徴について述べる。それは以下をカバーする：

- 規模
- 顧客基盤、資産構造、収入モデル
- 資本と資金調達構造
- 所有と企業統治
- 企業・法的構造
- 地理的範囲とクロスボーダー業務の構造

付録3は、その実績を含む、異なった個々の銀行の追加的な特徴について示す。

3.4.1 銀行の規模

「システム上重要な銀行」（SIBs）は、その規模や複雑さ、システムの相互連関ないしその業務を容易に引き継げる良好な代替機関がないゆえに、その困難ないしは無秩序な破綻がより広い金融システムや経済活動に著しい波乱を起こす機関である。

ヨーロッパのSIBsについて、合意されたリストはまだないが、金融安定理事会（FSB：Financial Stability Board）とパーゼル銀行監督委員会（Basel Committee）は、最初のグループとして29行のグローバルSIBs（G-SIBs）を特定した²⁴。規模、複雑さ、代替可能性、国を超えた業務の程度に照らして、15のEU銀行がG-SIBsとみなされている。これらの銀行は、表3.4.1（*で示される）に、後の分析のために選ばれたより広

24) すべてのグローバルSIFIs（Systemically Important Financial Institutions）のリストについては、http://www.financialstabilityboard.org/publications/r_111104bb.pdfを参照。

表3.4.1 EUの大銀行 (2011)

銀行名	本国	総資産 (百万ユーロ)	総資産/ 本国 GDP (%)	総資産/ EUGDP (%)	総従業員数 (2011年)	欧州の 支店数	総資産 の変化 (2007-11年 の変化, %)
Deutsche Bank*	DE	2,164,103	84.8	17.4	100,996	2,735	12.4
HSBC*	UK	1,967,796	119.8	15.8	288,316	1,984	22.2
BNP Paribas*	FR	1,965,283	99.8	15.8	198,423	6,816	16.0
Crédit Agricole Group*	FR	1,879,536	95.4	15.1	162,090	9,924	22.0
Barclays*	UK	1,871,469	113.9	15.0	141,100	2,602	12.0
RBS*	UK	1,803,649	109.8	14.5	146,800	2,477	-28.0
Santander*	ES	1,251,525	118.2	10.1	193,349	7,467	37.1
Société Générale*	FR	1,181,372	60.0	9.5	159,616	6,456	10.2
Lloyds Banking Group*	UK	1,161,698	70.7	9.3	98,538	2,956	141.5
Groupe BPCE*	FR	1,138,395	57.8	9.1	117,000	8,388	-
ING*	NL	961,165	161.5	7.7	71,175	1,938	-3.3
Unicredit*	IT	926,769	59.4	7.4	160,360	8,068	-9.3
Rabobank Group	NL	731,665	122.9	5.9	59,670	906	28.3
Nordea*	SE	716,204	197.4	5.8	33,068	1,097	84.1
Commerzbank*	DE	661,763	25.9	5.3	58,160	1,598	7.3
Intesa	IT	639,221	41.0	5.1	100,118	6,603	11.6
BBVA	ES	597,688	56.5	4.8	110,645	2,965	19.1
Standard Chartered	UK	461,284	28.1	3.7	86,865	3	104.5
Danske Bank	DK	460,832	193.7	3.7	21,320	620	2.6
DZ Bank AG	DE	405,926	15.9	3.3	25,491	25	-5.9
Landesbank Baden-W.	DE	373,059	14.6	3.0	12,231	217	-15.9
KBC	BE	285,382	80.5	2.3	47,530	2,058	-19.7
Handelsbanken	SE	275,514	75.9	2.2	11,184	747	40.0
SEB	SE	265,219	73.1	2.1	17,571	362	6.9
Banca Monte dei P.S.	IT	240,702	15.4	1.9	31,170	2,965	48.5
Erste Bank	AT	210,006	71.2	1.7	50,452	2,150	4.7
Swedbank	SE	208,464	57.4	1.7	16,287	554	22.5
RZB AG	AT	150,087	50.9	1.2	60,599	2,977	9.2
UBI	IT	129,804	8.3	1.0	19,407	1,919	6.8

注：*はバーゼル委員会・FSB方式によるシステムの上重要なグローバル銀行（G-SIB）を示す。サンプルは2つの基準をベースに選ばれた。すなわち、1）総資産で測って当該国の4大銀行の1つである、および、2）銀行の総資産が1,000億ユーロを超える。ポルトガル、アイルランド、ギリシャの銀行は除外されていた。Bankia（スペインの貯蓄銀行の合併により形成された）およびDexia and Belfiusも除外されている。これらの銀行の融資勘定や預金の規模を含めた、より詳細なデータは付録3に掲げられている。すべてのデータは、それら銀行のEU内でのビジネスを超える連結勘定による。

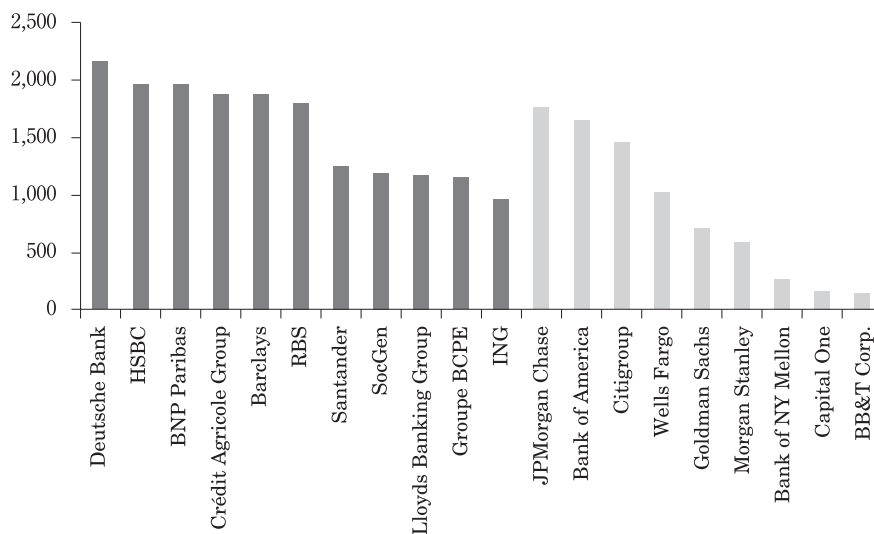
出所：すべての銀行データはSNL Financial。GDPデータはEurostat。

い29行のサンプルの一部として挙げられている²⁵⁾。

表3.4.1は、総資産で測られた（時価総額のデータについては付録3を参照）、2011年のそれぞれの銀行の規模についての基本統計を示している：

25) デクシアは、2011年のFSB報告でG-SIBsとしてリストに挙がっているが、ここではサンプルから外されている。

図3.4.1 EU とアメリカの最大銀行グループの総資産（2011年、10億ユーロ）



出所：Data from SNL Financial.

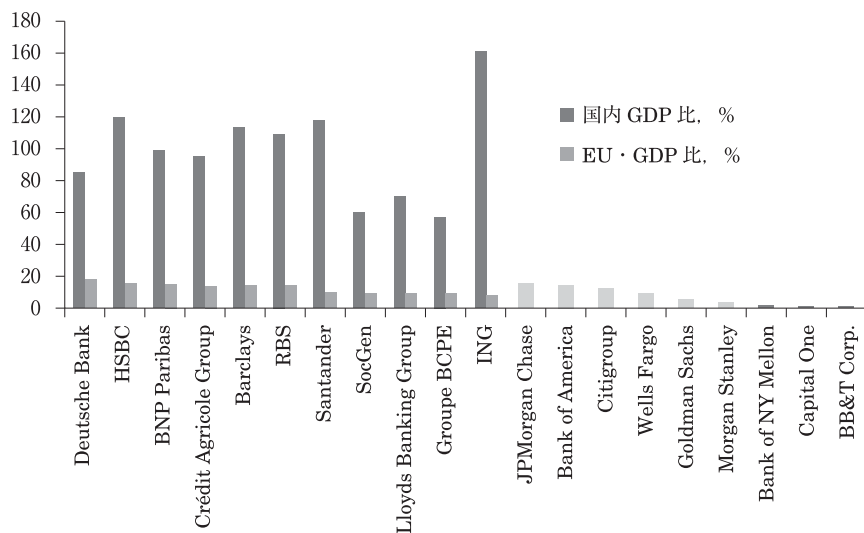
- 10行が1兆ユーロを超える総資産を保有し、最大の銀行（ドイツ銀行）は2兆ユーロを超える資産を有していた。
- 国内 GDP と対比すると、8行が国内 GDP の100%を超える総資産を保有し、最大は Nordea（197%）と Danske Bank（194%）であった^{26）}。
- EU の GDP と対比すると、最大の銀行は EU の GDP の17%に等しい総資産を保有していた。
- いくつかの銀行のバランスシートは、2007年と2011年の間で減少したが（それらの銀行のうちの何行かは、国家支援管理手続き下で欧州委員会に銀行再編計画を提出した）、多くの銀行は、そのバランスシートをさらに拡大させており、いくつかのケースでは、合併により拡大させた（例 ロイズバンク—HBOS、コムエルツ銀行—ドレスナーなど）。
- フルタイムの従業員の最大数は、HSBC（288,000人以上）で、EU で最大の支店数は、クレディ・アグリコル（9,000以上）である。

ヨーロッパの銀行のバランスシートは、アメリカと比較すると、少なくとも国内 GDP に対する総資産に照らして測られる時には、大きいように見える（図3.4.2）。絶対的な規模では、ヨーロッパの最大の銀行グループの報告総資産は、アメリカのカウンターパートのそれとさほど異なっていない（図3.4.1）。にもかかわらず、6つの EU 銀行グループの総資産は、最大の US 銀行（JP モルガン・チェース）のそれを超えている。

しかし、EU と US の銀行グループのバランスシート規模のいかなる単純な比較も、当てにならない。1つの主要な理由は、アメリカの GAAP ルールと EU の IFRS ルールの間に存在する会計の相違である。たとえ

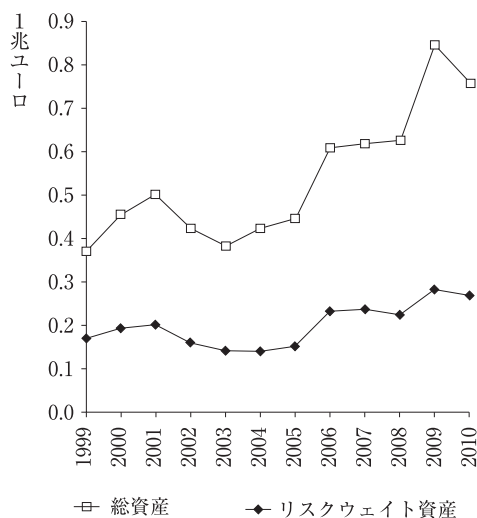
26) これらの銀行の資産の大きな割合が、他の EU 諸国の子会社にある。たとえば、Nordea については、バランスシートの約半分がフィンランドの子会社にある。

図3.4.2 EU とアメリカの最大銀行グループの総資産 (2011年, GDP 比, %)



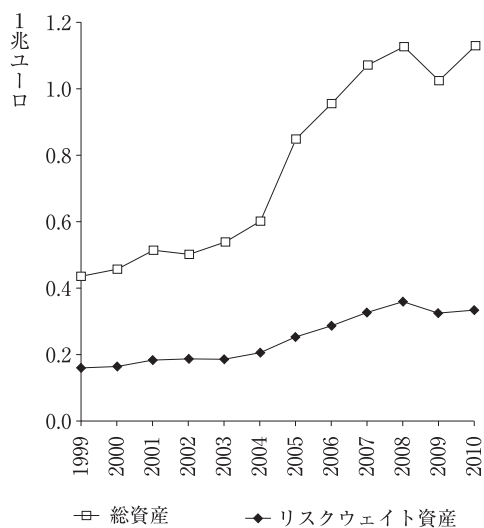
出所：データは SNL Financial. GDP データは Eurostat.
訳者注：右側の 9 つの米国銀行は米国 GDP 比。

図3.4.3 コメルツ銀行—バランスシートの推移



出所：Shin (2012), Bankscope のデータに基づく。

図3.4.4 ソシエテ・ジェネラル—バランスシートの推移



出所：Shin (2012), Bankscope のデータに基づく。

ば、US の GAAP の下では、同じカウンターパートとの単一のマスターネットティング契約の下にあるデリバティブについて、企業は、たとえネットベースでキャッシュフローを清算する意図を持っていなくても、ネットベースで資産と負債（現金担保を含む）を報告する可能性が認められている。同じ取り扱いは、レポおよびリバースレポ取引についても認められている。現在のアメリカの基準と異なり、IFRS の下で EU の銀行に適用されるそのような条項はない。分析によれば、このネットティングが無ければ、多くの US 銀行グループの総資

産は、著しく多くなる²⁷⁾。他の会計上の相違は、オフバランスシートの子会社の連結ルールの相違から生じている。

GDP に対する資産比率は、総資産が総 EU の GDP との対比で測られる場合には（ナショナルな GDP とは反対に）（図3.4.2）、最大の EU 銀行と US 銀行の間で、再びはるかにより似通ったものになる。たとえば、ドイツ銀行は、EU の GDP の17%に相当する総資産を保有しており、それは、US 最大の銀行グループ（JP モルガンは US の GDP の15%に相当とする総資産を保有している）とより近い線になり、もし既に述べた会計上の相違が考慮に入れられれば、より低くなる。要するに、単一 EU 銀行市場と対比すると、ヨーロッパの銀行はアメリカのそれに比べてより大きいようには見えない。

図3.4.3と図3.4.4は、大銀行のうちの2行の総資産（他については、後掲の図3.4.11と図3.4.12に示されている）が著しく増大していることを示している。危機に至る中で、これらの銀行の総資産の増加は、リスクウェイト資産の増加を著しく上回っていたが、それは規制の裁定と、トレーディングやマーケットメイク業務の高まる重要性を反映しており、バーゼル2の下での不当に低い資本要件から利益を得ていた。

ボックス3.2：規模の経済（不経済）に関する文献

付録4.1は、規模の経済に関する文献のより詳細なレビューを含んでいる。全体的に見れば、文献における調査結果はややまちまちである。いくつかの銀行業務に関してはある程度までいくらかの規模の経済が存在すると推計されているが、一定の銀行の規模を超えると、これらの規模の経済は一般になくなっていくと見られる（Wheellock and Wilson, 2009や、付録4.1でレビューされている論文を参照）。

銀行業の最大の効率的規模について、文献での意見の一致はないけれども、利用できる推計は、EU 最大の銀行の現行規模に比べて相対的に低い水準を示唆する傾向にある。

大銀行の潜在的なコストは、銀行による市場支配力の潜在的な乱用とリスクテイクの誘因に関係しており、それは大銀行の「大きすぎて潰せない」というステータスによる（Brewer and Jagtiani, 2009、ないし Boyd and Heitz, 2012）。また、大銀行は相対的に小さなビジネスほど貸しながらない傾向にある（Berger et al., 2004）。

いくつかの銀行は、株主価値の最大化によって駆り立てられるよりも、経営上もしくは帝国建設の熱意の結果として、巨大になった（Berger et al., 1999, Demirgüç-Kunt and Huizinga, 2011）。

注：文献レビューの詳細については、上記の調査結果への言及を含め、付録4.1を参照。

3.4.2 顧客基盤、資産構造、収入モデル

EU 最大の銀行グループは、典型的に「ユニバーサルバンク」であり、彼らは、預金の獲得や不動産、他の形態での貸付といった伝統的な銀行サービスから、セールスやトレーディング、マーケットメイク、引受、リスク管理などを含む投資銀行業務まで、すべて取り揃った銀行サービスを提供する。いくつかのグループは、保険サービスを提供する法人を有し、それゆえ EU において「金融コングロマリット」規制と監督の下にある。

27) たとえば、S&P Global Credit Portal (2011) の分析によれば、US 銀行のサンプルの総資産は、約70%増加し、レボヤリパースレボが含まれれば、さらに大きくなる。後者については、公表されている勘定からそれらに関するデータが利用できないとして、S&P の分析からは除かれている。

EUの巨大ユニバーサルバンクのいくつかは、時の経過とともに、かなりのグローバル資本市場業務とトレーディング業務を行うグループへと発展した。Moody's (2012)は、「グローバル資本市場業務を行っている企業」と表し、Fitch (2011)は同様に「グローバルトレーディング銀行」の同業グループと定義する。

必ずしもすべての銀行がすべての範囲のサービスないしは同程度でサービスを提供することを選んでおらず、大銀行の間でさえ、それぞれの銀行が行っていることには、著しいバラエティがある。顧客基盤は銀行間で異なっている。よりリテール指向の銀行は、当座勘定、貯蓄・貸付サービスを含む、主に伝統的な銀行サービスを求めている顧客基盤（たとえば家計、中小企業）を持っている。より大きくより投資指向の銀行は、フルセットの銀行・資本市場サービスを必要とするかもしれない顧客（たとえば大企業）、ないしは特定の資本市場サービスへの需要を持つかもしれない顧客（たとえば債券を発行する政府、あるいは資本市場での資金調達を試みる、ないしはリスクヘッジ商品を買うより小さな企業）を持っている。

リスク管理目的のためのデリバティブは、企業顧客によって使われる投資銀行サービスの一例である。International Swaps and Derivatives Association (2009)のサーベイによれば、世界最大の500社のうち94%が彼らのビジネスと金融リスクヘッジのためにデリバティブを使っている。外国為替デリバティブは最も広く使われている手段であり(88%)、金利デリバティブ(83%)と商品デリバティブがこれに続く。それゆえ、デリバティブは、特に大企業にとってリスク管理手段の一部分となっているが、いくつかの中小企業も外国為替や金利エクスポージャーをヘッジするためにプレーンバニラ・デリバティブを使うことを選ぶかもしれない。こうした状況にもかかわらず、デリバティブ商品の80%以上が金融機関の間で取引されており、それゆえ支配的なインターバンクビジネスとなっている。

ユニバーサルバンクでは、顧客は1つの銀行からフルレンジのサービスにアクセスできる。「ワンストップ・ショッピング」のこの可能性は、顧客（この文脈では、主に商業銀行および投資銀行サービスを望んでいるかもしれない企業顧客）にとって価値のあるものであるが、これらの需要サイドの範囲の経済は、顧客によって大きく変動しがちで、求められる銀行サービスの組合せに依存している（範囲の経済に関するさらなる証拠については、付録4.2も参照）。しかしながら、大手の顧客は、いくつかの小さな顧客同様、どのみち1つ以上の銀行と関係を維持する傾向がある。顧客の切り替えのなさは、一部は顧客の慣性や、情報の欠如もしくは不透明性によるが、リテール銀行市場における競争にとって知られている障壁の1つである（第2章も参照）²⁸。銀行は、自ら商品を「生産」することなく、顧客に対してデリバティブや他の商品を提供することもできる。彼らは代理人ベースで活動し、他の銀行によって提供された商品を売ることができる。

銀行の公開された勘定は、それぞれの銀行の顧客基盤や彼らのニーズについて情報を提供しないが、銀行の業務の相違は、彼らの資産構造や収入モデルから明白である。

図3.4.5から図3.4.10は、2011年についていくつかの基本統計を示している。

- いくつかの銀行にとって、顧客へのネットの融資は、総資産の50%以上になっている。3つの銀行にとって、ネットの顧客融資はバランスシートの30%以下となっている。

28) リテールの金融サービスに関するユーロバロメーター (European Commission, 2012b)によれば、ヨーロッパの顧客の80%以上は、個人的な融資、クレジットカード、当座預金、ないし住宅ローンを購入した後、一度も提供者 (provider) の変更を試みたことがない。